

『ドラマト (ペパピポアートポート in いたばし)』2015 実施記録

ふしぎないきもの・ふしぎなまち・不思議な世界でつろう、あそぼう！

- 日程：2015年12月13日(日) 15:30～18:00 ●会場：常盤台地域集会室和室
- 参加者・人数：幼児と保護者 12組24名 / 小学生 8名 合計32名
- 講師：中根久寧 叶雄大 ●主催：こども劇場いたばし

■1回目 新モアイ発見！

●モアイ像を写真を使って紹介

チリのイースター島にある人面を模した石造彫刻。住居を取り囲むように建てられている。村を見守っているらしい。大きさ3.5m、重20トン。最大は20m。約900体。

●新モアイ像発見 想像して作ってみよう

近くの工事現場から大きな顔の像が発見されたらしい。どんな顔か想像して作ってみよう。

幼児は保護者と、小学生は低学年と高学年でペアになる。

A3の紙(石模様3色)を1枚ずつ配布。2つに折り、さらに2つに折って目の位置にハサミで穴をあける。目だけの顔を向かい合わせて床に置く。どんな表情・感情があるか見比べてみる。

どんな口、鼻や輪郭なのか想像して、穴をあけたり切ったりする。のりや両面テープでパーツを貼って行く。A4の紙(石模様5色)を1枚ずつ配布。さらなる装飾に使える。色違いの紙は他の人と交換して手に入れる。

●新モアイ像で会話

作った像を床に立てて見つめ合ってみる。この像が一言しゃべるとしたら何というか考えてみる。

ペアで向かい合って、それぞれ一言いってみる。

全員像を持って向かい合わせて二重の円を作る。

改めてペアで一言づついってみる。ずれて新しいペアになり同様にいう。セリフは変えてもいい。色々な人と自由にあいさつ。

●新モアイ像設置

床に並べて気に入った像を見つけて、何を言っているのだろうか想像する。

壁際に並べ直して置いてみる。観賞。

この街やみんなを見守る顔の像が並んだ。街や人々にかかる言葉(つぶやき)を考える。

(危険なことを知らせたり、思いやりのある声かけや励まし、生活上の注意など)

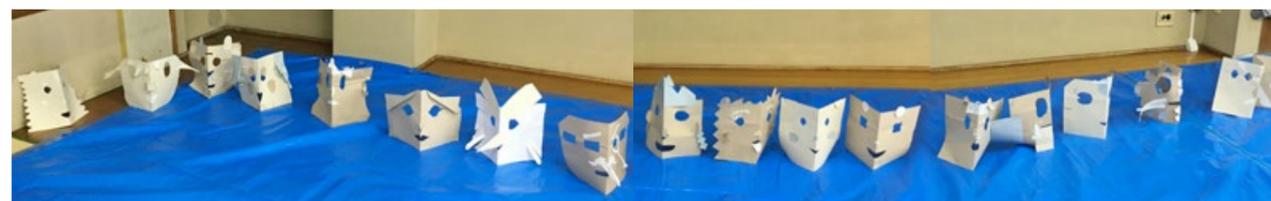
思いついた人からその像が何と行っているのかしゃべってもらう。



↑ひっくり返して2つの顔と性格(オコリンボとテング)

いたばしスタッフが作ったゴミ入れ。くずガミ様と命名され子ども達は争ってゴミ捨てをしていました。

<感想>
クリスマスを祝う、交通ルールを守らせる。あいさつをする。などのつぶやきが語られました。優秀な頭脳が流出しないように見張っている像もありました。
子ども達の感想としては「楽しかった」のほか「みんなの考えがわかっておもしろい」などの発言がありました。



『ドラマト (ペパピポアートポート in いたばし)』2015 実施記録

ふしぎないきもの・ふしぎなまち・不思議な世界でつろう、あそぼう!

- 日程：2016年1月16日(土) 14:30～16:00 ●会場：開進第三小 マルチパーパス室
- 参加者・人数：幼児と保護者 4組8名 / 小学生(1・2年) 18名 合計26名
- 講師：中根久寧 神山一郎 ●主催：こども劇場いたばし

■2回目 妖怪くずがみ様

●導入

「手遊びジャンケン(ちょっとばあさん)」「キャッチ」

●見立て遊び

クラフト紙を丸めてかたまりにする。「これは何に見える?」形から想像したものを発表。発言が非常に活発なので後半は順番に前を出て発表。1アクション追加してもらう。使った紙はテーブルの上に置いて休憩。



携帯電話

●「くずがみさま」登場

後半を始めようとするとか変。

丸めた紙の1つは「くずがみさま」だった。この部屋に30年すむ「くずがみさま」は330才。名前は「もけらもけら」(子ども達からは「もじい」「長老」「師匠」などと呼ばれる。)ずっと1人だったので、仲間を作って欲しい。子ども達に命のもと(目玉のシール)を渡して自分なりの「くずがみさま」を作ってもらおう。名前を決めこの部屋のどのへんが居心地良さそうか考えて移動してもらおう。

●警備員

そうしているうちに夜になる。(照明を暗くする)

長老「大変だ。ここは夜になると警備員が回って来る。見つかるとう紙くずとして捨てられてしまう。息を止めるとその間透明になれる。懐中電灯に照らされる間は息を止めること。」

警備員が扉を開け入って来る。落ちているゴミを拾ってゴミ袋に入れながら、あちこち点検する。怪しいが何も見つからないので部屋を出ていく。



●家を作ろう

イスや机、連結マット、紙の端切れなど室内にあるものを使って、自分の家や秘密基地などを作ろう。最後にみんなに自分の家を紹介。



もけらもけらと新しいくずがみ達



ワインとワイングラス



警備員巡回中



色々なすみか



『ドラマト (ペパピポアートポート in いたばし)』2015 実施記録

ふしぎないきもの・ふしぎなまち・不思議な世界でつくろう、あそぼう！

- 日程：2016年1月17日(日) 14:30～16:00 ●会場：板橋区下赤塚駅前集会所 和室
- 参加者・人数：幼児と保護者 17組 34名 / 小学生(1・2年) 4名 合計 38名
- 講師：中根久寧 神山一郎 ●主催：こども劇場いたばし

■3回目 トイレtpペーパーの森

●ペパピポ人形を作る

A4の紙3枚と輪ゴム2本で作成。

●ペパピポを連れてストップ&ゴー

ペパピポを動かしてみる 手を振る あいさつ 床につけてあるく・とまる ジャンプ(人間も)

●トイレtpペーパーの道

車座になり合図で中心に向けて転がす(端は持ったまま)

先端のロール部分を回収して再度転がす。斜め方向にも転がす。

ペパピポをできた道の上で歩かせる。出会ったらあいさつ。じゃんけんで負けたら道を譲る。

(ペパピポがそのままのポーズでパー、逆立ちで、チョキ。頭を突き出してゲー)

○休憩中にスタッフが養生テープでトイレtpペーパーを壁に貼り森にする。

●トイレtpペーパーの森

探検隊長を先頭にペパピポと一緒にまたいだりくぐったりして森を探検。白いつたにさわるとしびれてしまうので注意。実はこの森の奥にはきれいな色の葉っぱの色の木が立っていて、その葉を手に入れればしびれなくてすむらしい。

●色の木

広場に到着。色の木が立っている。(スタッフが手を伸ばして色紙を持って立つ)

触らずに落とす方法を考える。(みんなでおならを吹きかける事にした)

せーのでおならをすると、色とりどりの木の葉が落ちてくる。

●服を作る すみかを作る

落ちてきた木の葉でペパピポの服を作る。

ある程度できたら森の中の好きな場所に行く。

1人でもみんなとでもOKで、家や秘密基地などを作る。

●後片付け

感想を聞いた後、「壊せ！」のかけ声で森を壊して片付ける。



トイレtpペーパーの道



森の探検



お風呂



自分の居場所にマーキング



終わった後も大事そうに持っていた



金銀の折り紙がとてうれしい



ひたすら人形と一緒に飛び回る



『ドラマト (ペパピポアートポート in いたばし)』2015 実施記録

ふしぎないきもの・ふしぎなまち・不思議な世界でつろう、あそぼう！

●日程：2016年2月28日(日) 14:00～15:40 ●会場：常盤台地域集会室和室

●参加者・人数：幼児 8名 / 小学生(低学年) 7名 合計 15名

●講師：中根久寧 神山一郎 ●主催：こども劇場いたばし

■4回目 鳥になる

●導入

「リーダーとじゃんけん／みんなとじゃんけん」 勝った人喜ぶ。負けた人悔しがる。あいこは無表情。歩き回ってみんなとじゃんけん。

「サムライじゃんけん」 勝った人は刀で切る。負けた人は大げさに倒れる。あいこはあいこは無表情。

●翼を作る

横造紙半裁2枚を配布。横長に張り合わせてつばさを作る。

取っ手を調整(トイレットペーパーの芯2本をスズランテープでつなぐ[手を伸ばした幅に調整])

つばさをガムテープやカラーペンなどで装飾。取っ手も取り付ける。 休憩後に翼の展覧会。

●旅立ち

渡り鳥の隊長が登場。

「南の国に生まれたひな鳥たち。これから海を渡って日本に向かう旅に出る」という。

羽ばたきの練習。飛ぶ練習。2列になって飛ぶ練習。十分に練習できたら出発。

海岸に近づくとトンビが襲って来る。小回りの利かないトンビを素早くよける。

●南の島

海にでる。気持ち良く飛ぶ。クジラの潮吹きや船から手を振る人に出会う。

風が強くなる。雨も降って嵐になる。がんばって飛ぶ。

島を見つけて休憩。羽をテントにして眠る。一夜が明けてさわやかな朝。

フルーツや食べ物を探してみんなで朝ご飯。(お弁当も持つ)

再び日本に向けて出発。

●日本へ

日本につく、富士山を横目にいたばしへ。

ところが、成増でカラスの組長が立ちはだかる。「うるさい、ここは通さない」の一点張り。

後ろで雌のカラスが卵を温めているのが見える。(カラスは卵を暖める妻を気づかっているらしい)

みんなで話し合っ、静かに静かに飛ぶことで通ることができた。

とうとう到着。最後に3週全速力で飛んでときわ台に到着。



<感想>

- ・同時開催で太宰先生の講演があったので保護者は参加せず。幼児は5・6才に限定した。
- ・翼を作る際には「取っ手」のスズランテープの造作が特殊で、いたばしのスタッフにも協力していただき個別に対応した。その甲斐があって、どんなに激しく羽ばたいても翼が壊れることは無かった。
- ・翼をまとうとそれだけでとても楽しそうだった。羽ばたく練習もしたのだが、あまり羽ばたかず、グライダーのように飛ぶ子が多かった。
- ・羽を畳むとテントのようになるというのは子どもが発見した。また、食べ物では虫を見つけた子もいた。
- ・静かに飛ぶという解決案。全員気持ちをそろえて静かに行動するには少し時間がかかったが、最後には本当に無音で飛ぶことができた。最後に思いっきり飛ぶときは楽しさMAX。遊び切って活動を終えることができた。



『ドラマト (ペパピポアートポート in いたばし)』2015 実施記録

ふしぎなきもの・ふしぎなまち・不思議な世界でつくり、あそぼう！

- 日程：2016年3月6・13日(日) 14:00～15:30 ●会場：南常盤台1丁目集会所2階 和室
- 参加者・人数：6日＝幼児親子6組/小学生1人 合計13人 / 13日＝小学生8人/幼児5人/大人5人 合計18人
- 講師：三森 渚(両日) 高橋諒多(6日) 神山一郎(13日) ●主催：こども劇場いたばし

■5・6回目 ペパピポとダンス

●導入

「色々な歩く」「パワー伝達」(車座で、手をぎゅっと握って伝達していく)

●紙を挟んでペアダンス(3/13のみ)

ペアで手と手の間に紙を一枚挟み、それが落ちないように自由に動いてみる。

●ペパピポ人形を作る

A4の紙3枚と輪ゴム2本で作成。大小の2種類のどちらのタイプを作ってもよし。色とりどりの折り紙、モール、毛糸などで好きに装飾。

●ペパピポ操り人形

講師が動かす人形と同じ動きをしてみる。その後、ペアを作ってお互いにやり合う。

●ペパピポオブジェ

5人～8人くらいでどこから体の一部分が繋がった状態でポーズをとってストップ。残り的人でその人達の体にペパピポをのせにいく。→ひとつのオブジェとする。見ている人がそのオブジェにタイトルをつける。

●ペパピポアスレチック(3/6のみ)

オブジェと同じように5人～8人くらいが繋がっているポーズを作る。それをアスレチックに見立ててペパピポを遊ばせる。子どもの場合は、自分自身も足の間をくぐったりまたいだりして遊ぶ。

<感想>

- ・グループわけで「大人だけ」「子どもだけ」にすることで幼児がだんだん親から自立して1人で歩けるようになっていく様子が感じられた。
- ・普段しないような少し無理な動きが自然と笑顔をうんだ。全体がとてもいい雰囲気だった。
- ・人の真似は恥ずかしくても、ペパピポ人形の真似はできる。「ペパピポ人形と自分」という関係性により集中することが出来、周りを気にせず動くことができる。幼児も取り組めたが、小学生の方が集中して細かいところまで忠実に真似しようとしていた。
- ・オブジェの活動では、それまで落ち着きのなかった幼児がしっかりなりきり、ポーズで止まっていたのが印象的だった。3歳の幼児ものせられたペパピポ人形を落とさないように真剣な顔で耐えていた。また、幼児から自分の親に向けて「お母さん頑張って！」などという言葉があった。普段と違う親の姿を楽しんでいるようだった。

<全体の感想>

- ・ペパピポの新たな可能性を見た！
- ・ドラマト経験者のリラックスした雰囲気が全体に影響し、最初から壁を作らずにすんなりと活動に入っていくことができた。

